



Teach For All Global Teaching Summit in Miri, Malaysia 5/1~5/4/2016

報告者: 3期フェロー 磯依里子

0 日目 先輩フェローと面会 in クアラルンプール

カンファレンスが始まる前日に、クアラルンプールにてストップオーバー。今年3月まで、Teach For Japan のフェローシッププログラムを終了し、現在はクアラルンプールにて勤務をしている2期生の中田フェローと再会しました。

中田フェローとは、1年間、同じ大阪府内の公立中学校に勤務していました。彼女は、私にとって、子どもとの関わり方、授業作りの仕方、今後の将来展望など、多くを語り合った「戦友」であり、問題解決能力と行動力を兼ね備えた心から尊敬する大先輩。

この日は、中田フェローから、現在のクラスの様子に対するアドバイスを頂きました。授業中に座ってられない生徒や、大人への不信感が強い生徒への対応など、彼女の成功体験談を通して、私自身の授業運営への有意義な示唆を得ることができました。とりわけ、話の終盤に中田フェローから言われた一言が印象的でした。

「一回、一回の授業の中で、『今日こそは変わりたい』と思っている生徒が、必ずいるから。」

子どもが変化する一瞬一瞬を見逃さないこと。どんな子であっても「変われる」ことを信じ続けること。日々の業務に追われて忘れかけていた、基本的な「子どもを見る眼」の在り方を、中田フェローはもう一度思い出させてくれました。

1 日目 ビジョンセッション/Maya musicals

いよいよグローバルカンファレンスがスタート。世界中から集まった教師たちとともに、まず行ったのが「自分自身を知る」こと。そして、「自分自身を語る」ことでした。

“Every block of stone has a statue inside it
and it is the task of the sculptor to discover it”

— Michelangelo

(どんな石の塊も内部に彫像を秘めている。それを発見するのが彫刻家の仕事だ。)

オープニングセッションにて、Teach First のディレクターの Tim は、ミケランジェロの言葉を引用して、私たち参加者にこう伝えました。

「どんな人であっても、4つの石: 『見栄(looking good)』『人生で起こった出来事(stories)』『批判・非難(judging/complaining)』『競争心(striving/competing)』に囲まれている。その石に囲まれている限り、本当の問題解決はできないのだ。」

上辺の「肩書き」では表すことの出来ない、本当の自分の姿を見つめることから、カンファレンス

は始まりました。そして次に、ペアになって、「本当の自分」の物語を、互いに共有しました。このセッションを行ったことで、世界中から集まった仲間たちの間に、不思議な一体感が生まれました。

午後は、“Teaching As Leadership”の著者 Steven から、直接リーダーシップ理論とビジョンセッションを受けました。グループに分かれて、各個人のビジョンと、そのビジョンを達成するための具体的な施策について討論しあう中で、国は違えども、似たような悩みをそれぞれの教師が持っていることがわかり、その悩みを共有することができました。

リーダーシップ理論/ビジョンセッション終了後は、各国の Teach For All 加盟団体がどのような取り組みを行っているかを紹介するセッションが、ワークショップ形式で催されました。私は大学時代にミュージカルをしていたこともあり、演劇教育に興味があったため、Teach For India による “Maya musicals” の取り組みを紹介するセッションに参加しました。Teach For India では、子どもたちの課外活動の一貫として、インドの伝統的な物語である “Maya” を、本格的なミュージカルにして発表するプロジェクトを行っています。ワークショップでは、このプロジェクトを通して、子どもたちの「勇気(courage)」「共感(compassion)」「知恵(wisdom)」「自信(confidence)」「愛情(love)」「感謝(gratitude)」「謙虚(humility)」が育まれる様子が紹介されました。

夜には、Global Learning Community グループで、Miri の繁華街へ。ドイツ、リトアニア、アメリカ、オーストラリア、マレーシアから集まった教師や、各団体のコーチたちと、深夜まで語り合い、楽しいひと時を過ごしました。

2日目 学校訪問・ロングハウス訪問

2日目は、Teach For Malaysia のフェローが勤務している学校を訪問したのちに、サラワク州の民族が住む「ロングハウス」を訪問しました。

今回訪問したのは、中高一貫型の公立学校。総勢 900 名近くが通っているとのことでした。この学校の始業時間は朝 6 時 30 分、終業時間は昼の 1 時すぎ。その理由は、暑さ対策のため。茹だるような暑さの中、子どもたちはエアコン・扇風機なしの、コンクリート張りの教室で勉強していました。出会った生徒たちに「学校は好き？」と質問すると、ほぼ全員が「好き」と答えたこと、そしてほぼ全員が、大学進学を望んでいることが非常に印象的でした。

しかしながら、今回の訪問で出会った子どもたちの様子が、マレーシアの学校事情を反映しているわけではない、と Teach For Malaysia のフェロー、Sophia は教えてくれました。彼女は、クラスの子の家庭訪問に行った際に、本来は学校へいくべき年齢である兄弟たちが全員、学校へ行かずに自宅で手伝いをしている様子を目の当たりにしたそうです。義務教育は無償であるにも拘わらず、経済的な事情により、学校に通えない子どもがいることや、途中で退学していく子どもたちも一定数いるということが、マレーシアの現状であるようです。

学校訪問のあとは、サラワク州の少数民族が住む「ロングハウス」へ。ミリ市内からバスで約 2

時間、そしてトラックの荷台の上で 30 分ほど揺られ、ジャングルの奥地へと向かいました。ロングハウスに住む人々は、伝統的な音楽と踊りと食べ物で、私たちのことを暖かく迎えてくれました。

ロングハウスの、文字通り「ロング」な廊下で、Global Learning Community に分かれてお互いの学びをシェアしました。欧米から来た先生たちにとっては、「規律」や「大学進学」が重視された雰囲気や、子どもたちのシャイな様子がとても新鮮だったようで、衝撃を受けたという声が多く聞かれました。

3日目 ワークショップ

3日目はワークショップ形式での講義でした。参加者は、全 19 種類の講義の中から、好きなトピックを選択することができました。ここでは中でも特に印象的だった二つの講義を紹介します。

- Meeting the Real You

これは、1 日目に登場した Tim による、2 時間に及ぶセッションでした。「あなたはこのセッションで何を手に入れたいのか」という問いから始まり、私たちが生きているのは「今、ここである」という哲学的な議論を経て、「過去」、そして「今」から引き起こされる「予測可能な未来(predictable future)」ではなく「新しい未来(alternative future)」を、私たちは創ることができる、という Leadership for Transformation 理論について学びました。

講義の内容はもとより、矢継ぎ早に質問や意見が飛び交い、白熱した議論が繰り広げられる様子は、今まで受けてきたどの講義よりも興味深いものでした。講義の途中で、「もういい、私はこのセッションから出て行くわ」と退場宣言をする人が現れたり、それに対して反論意見が多数あったりと、一時は終着地点が見えないような展開に。そんな様子にも、Tim は全く物怖じしていませんでした。

「今の君たちの姿が、『批判・非難(judging/complaining)』のステージにいるあなたの姿だよ。もしかしたらその中には『見栄(looking good)』の気持ちもあるかもしれない。どうだい？そして、今ここで起こっていることこそが、僕がこのセッションでしたかったことなんだ。そしてこれが僕たちの人生そのものなんだ。」

その場で起こるすべてのことを学びに変える Tim のファシリテーションの仕方には脱帽しました。2 時間に及ぶセッションだったのにも拘わらず、私たち参加者はランチの時間も、ずっとこのセッションについて自分たちがどう感じたかを話し合いました。

- Make it Stick

これは Whitney による、科学的根拠に基づいた学びについてのセッションでした。授業の中での学びを、効果的に記憶に定着させ、想起させやすくする手法を実践的に学びました。具体的には、一様な勉強方法よりも、同様の内容を様々な形式で行う方が記憶に定着しやすいことや、一度に多くを詰め込むよりも、時間を空けてから復習する方が、長期記憶として残りやすいこ

とを、ワークシートやフラッシュカードを使用して学びました。講義の間は、終始考えるか何かしらの活動をしていて、無駄な時間が1分たりともなく、大変綿密な授業設計が組み立てられていたことを実感しました。

Tim、Whitney の両者から、「よい授業」の在り方を学ぶことができました。普段は授業を行う立場にいる私ですが、生徒として「授業」を実際に受けることで、生徒目線での「よい授業」とは何か、を考え直す良いきっかけとなりました。

おわりに Global Teaching Summit に参加して

書き尽くすことができない程、多くの学びがありました。その中でもとりわけ強く感じたのは、世界35カ国に渡る「仲間」の存在です。ドイツには、シリア難民の子どもたちを教えている仲間がいます。バングラディッシュには、経済的に本当に厳しい環境にいる子どもたちを教えている仲間がいます。タイには、子どもの学習意欲をどのように高めるかを悩んでいる仲間が、ベルギーには、母語が異なる子どもとどのようにコミュニケーションをとるかを悩んでいる仲間が、マレーシアには、どうすれば自分のビジョンを具体的に実現できるのか悩んでいる仲間が。

「自国の教育格差是正に少しでも貢献したい」という強い思いを持って、“Teach For”という選択をしている仲間が世界中にいるということ。今回のカンファレンスに参加して、その存在を知れたことは、計り知れない程の大きな励みとなりました。

世界各地の仲間と出会って得たエネルギーを、教室の中の「今日こそは変わりたい」と思っている「あの子」に、届けていきたいと思います。